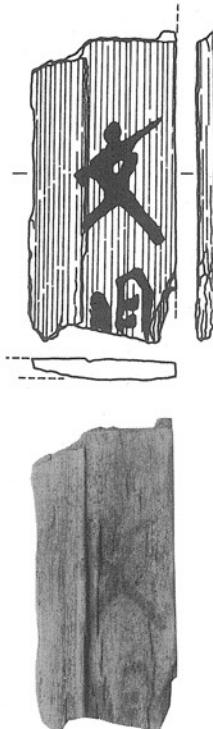


2004年出土の木簡



(長岡)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
松葉遺跡は、越後守護上杉氏の祈願所の一つであった臨済宗普済寺の前身、大行寺の跡という伝承が残る三貫梨遺跡の、栖吉川を挟んだ対岸に位置する。地形的には、山麓堆積地形の土地流段丘に相当する。
検出した遺構には、方形区画と付属する墓地、低湿地、掘立柱建物二棟などがある。木簡は、掘立柱建物南側の包含層から出土し、調査後に墨書き確認された。



長岡市教育委員会「松葉遺跡」(一九九四年)
(広井 造(長岡市立科学博物館))

新潟・松葉遺跡

8 木簡の釈文・内容

(1) 文明

(67)×(30)×4 081

所在地 新潟県長岡市栖吉町
調査期間 一九九三年(平5)五月～八月

3 発掘機関 長岡市教育委員会

4 調査担当者 小熊博史

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 縄文時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

松葉遺跡は、越後守護上杉氏の祈願所の一つであった臨済宗普済寺の前身、大行寺の跡という伝承が残る三貫梨遺跡の、栖吉川を挟んだ対岸に位置する。地形的には、山麓堆積地形の土地流段丘に相当する。

9 関係文献
研究会「中世北陸の木製容器」(一九九五年)。
長岡市教育委員会「松葉遺跡」(一九九四年)

上下両端は折れ、左刃は割れている。右刃は原状の削面をとどめている。「文明」はおそらく元号で、一四六九～八七年に相当する。

文明二年(一四七〇)頃に古志郡司長尾家の家督を相続した長尾孝景は、任国に在住する越後守護上杉房定のもと、古志郡内での領主権を強め、文明一五年から三年間、同郡域を含めた地域を検地し、検地帳を作成している(上杉家文書)。木簡は、この長尾孝景の支配が強化された時期のものであろう(広井造「松葉遺跡」北陸中世土器研究会「中世北陸の木製容器」(一九九五年))。